

(4) 社会学教育における授業モデルの検討

サイバー・キャンパス・コンソーシアム社会学グループは、22年8月、9月、11月、12月の4回開催し、学士力の実現に求められるICT活用の授業モデルの検討を行った。

卒業時点で学習成果としての理解度の定着を確実なものとするため、知識・技能の活用を発展的に繰り返す振り返り学習を導入するため、上級生によるファシリテータによる学習支援の授業デザインを2例とりあげることにした。

一つは、基礎演習で学生を少人数（15名程度）に分け、社会現象や問題の理解と解決に取り組むPBL学習のモデルとした。

二つは、社会の在り方についてのビジョンを持ち、社会的な問題の解決に向けた提案ができる能力を身に付けさせるため、対話型の授業、グループ討議等を行い、その結果を発表させるとともに、学びの成果をWebなどを通じて社会に発信し、外部の有識者からの意見を取り入れ発展的に学びの振り返りを行う授業モデルとした。